

受験番号

[]

氏名

〃

〃

二〇二三年度

女子学院中学校入学試験問題（国語）

一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

1999年夏、私はハンガリーの草原に座っていました。

皆既日食に合わせて開催された、若手研究会に参加させてもらったのです。

「日食」は、太陽の手前を月が横切って日光をさえぎる天体現象です。

中でもすつぽりと太陽をかくしてしまう皆既日食は、昼の明るい空が完全な闇夜に変わる、珍しいイベントです。

私も知識はありましたが、わかった気になっていたのかもしれませんが。

それは初めて体験する、幻想的で、日常とは異質の風景でした。

まず、太陽に変化を感じない頃から肌寒くなります。

じっとしていても汗ばむほどの真夏だったのに、いつの間にか冷たい風が吹き始めて少し薄暗くなってきました。

異変を感じたのか、馬が何頭もヒーンといなき、鳥や蝶が忙しそうに低空飛行していきます。

そして、さらにあたりが暗くなって、ついに太陽の光が消えた瞬間――。

夏の昼は闇になり、360度の地平線は朝焼け色に染まって、空には星がいくつもキラキラ輝き始めました。

馬はもう声も出さずに、じっとしています。

暗くて鳥や蝶の姿は見えませんが、気配が消えています。

① いっぽう、人間は大きすぎです。

各国から集まった人たちからは歓声が上がリ、ある人は口笛を吹き、ある人はカメラのシャッターを切り、カップルは抱き合っていました。

でも人間も、もし数分後には月が通り過ぎて再び太陽が顔を出すことを知らなければ、本当にびつくりするだろうし、世にも恐ろしいことが起きたと感ずることでしょう。

淡々と進む宇宙のできごとを前に、その時の私の感情が喜怒哀楽のどれだったかは、実はうまく表現ができません。

ただ、ひとすじの光が月の裏側からこぼれ出た瞬間に、夜は昼になり、夏が戻り、馬が声を上げ、蝶が舞い、鳥の姿が見えて、私はとつさに「生かされている」と感じ

てリレーしているところです。

知恵のリレーの横には、必ず「記録(データ)」があります。

たとえば新しいスマホやテレビドラマ、コンビニのお弁当メニューでも、何でもいきなり完成品はできませんよね。

たくさんテストを重ねて、失敗するたびに工夫し、その経験や記録をもとにして、人は少しずつ前へと進んできたのです。

その結果として、この日常があつて、ここが岩の惑星の上だということを知り、

⑥人は恐竜と違って「知らぬが仏」ではなくなってきたのです。

ふだんの生活ではあまり気にしないものですが、経験や記録というのは、⑦明日の自分のために極めて大切だ、と知っておいたほうがよいものです。というのも、この世界では人類の英知を無視したり排除したりということが、いとも簡単に起きてしまうからです。

たとえば、5世紀のアレクサンドリアにヒュパティアという学者がいました。とても聡明な人で、数学者、天文学者、教師として多くの人たちから尊敬を集めました。でも同時に、彼女の科学的で学術的な考え方や態度は、妬みも生じましたようです。やがて信仰や思想がはずれていると追いつめられ、ついには暴徒におそわれてしまいました。とても残酷でむごい最期だったと伝えられます。

近世のイタリアでは、地球や太陽が宇宙の中心ではない、と言ったブルーノという修道士が、教会の教えに背いたという理由で火あぶりの刑になりました。

こうしたすぐれた知恵のもち主が、大勢の人の考えに合わないとか、権力をもった人の気に食わないという理由で消されてしまい、彼らがつなぐはずだった知恵のリレーは、その価値を理解できない人たちによって断ち切られてしまったのです。

英知そのものでもある書物を次の世代にリレーできない、ということもよく起ききました。秦の始皇帝が行った焚書(書物を焼いてしまう)こともそのひとつです。

同じ時代の古代アレクサンドリアでは、図書館にせつせと書物を集めていました。でもその図書館も数百年後には壊されてしまいました。

ようやく手にした英知を、私たちは時代の流れの中に何度も落としたりなくしたりしてきたのです。

知恵をリレーするためには、あなたや私を含むたくさんの人がその価値を知って、

たのです。近くにいたご婦人が私を見て、

「あら、あなた泣いているの」

と②私の背中に手を置いてくれたのを覚えています。

古代の人たちは、天を注意深く観察して③生活の役に立てていました。

もちろん、時計もGPSもない時代です。

日の出入りや月の満ち欠けは、時間が流れていることを教えてくれました。

いつも同じ方角にある星は、旅をする人に進む道はどちらかを教えました。

古代エジプトの人たちは、おおいぬ座の「シリウス」という星が日の出直前に見えると、もうすぐナイル川が氾濫する季節だ、というのを知りました。彼らは自然災害から身を守って、種まきのための栄養たつぷりの土がやってくるタイミングを星に教えてもらったのです。

星座の星たちとは天でのふるまいが違う惑星は、うつろいやすい人間社会の運勢と結びつけられることもありました(現代の星占いは、このあたりから生まれたようです)。

空に尾を引く彗星(ほうき星)や日食など、突然起こる空のできごとは、不吉の前触れとも考えられました。

今ほど、迷信と科学がはっきり分かれていなかった時代です。

古代の人たちにとつて、空のできごとは今と比べものにならないほど神秘的で、そこな現象として見えていたことでしょう。

ひるがえって現代の私たちは、日食がどうして起こるのかを科学的に知るようになりました。

太陽の位置を知らなくても時刻がわかるし、カーナビを使えば旅先で困ることも減ったし、わからないことはスマホやパソコンで検索すればあつという間にいろんな知識を教えてくださいます。

考えたらすごいことです。

人に与えられた命の時間はせいぜい100年足らず。あなたひとりや、私ひとりの力では④絶対にはなっていないのです。

人間がスペシャルなのは、ひとつには自分たちの⑤すごい知恵(英知)を世代を超え

意識的に管理したり保管したりする「空気」が必要なのです。もちろんこれは天文学にかぎった話ではありません。

天文の世界ではこんな知恵のリレーがありました。

高さ600kmの宇宙空間に浮かぶハッブル宇宙望遠鏡の名前になった、エドウィン・ハッブルといえば、銀河系の外にも宇宙が広がっていること、ほかの銀河が私たちからどんな遠ざかっていることを見つけた天文学者です。

彼の発見は20世紀の大発見でした。

というのも、この発見より前は、私たちのいるこの銀河系こそが宇宙のすべてで、宇宙は動かず、始まりも終わりもない、と考える人が多かったからです。

それが「宇宙は広大で無常である」と知ってびつくり仰天、人間の宇宙観はこの発見をきっかけにガラッと変わりました。

でも、世の中のあらゆる成果と同様、この大発見もハッブル一人のがんばりだけで実現したものではありませんでした。

何年も前の観測データ(記録)を貴重品として保管していた人や、自分のデータを惜しまず公開したスライファアという研究者の存在があり、発見には「過去のデータ」が重要な役目を果たしたのです。

ハッブルが使った「天体の距離を測る方法」も、先にリービットというものすごく根気強い研究者がいて、彼女が発見していたものでした。

加えて、「大きくて性能の良い望遠鏡」は、ハッブルが自由に使うことができる状態になっていました。

ハッブルの大発見は、みんなが少しずつリレーした知恵や工夫が、満を持して花開いたものだったのです。

天文学には「データベース天文学」という研究方法があります。

これは、過去のデータをきちんと管理して誰でも使える状態にしておくことで、別のデータと組み合わせたり、誰かの発見を確認(検証)したりする研究方法のことです。

たとえば、宇宙に向けてパシャリと撮影した写真(データ)には、無数の星や銀河が写っています。それは宇宙のある瞬間、ある場所を写した唯一無二の記録です。そこには最初の研究目的とは違う、大発見につながる思いがけない現象や、地球の危機を

救う「何か」が写っているかもしれません。

でも、ただ放っておくと、貴重で膨大なデータは使い捨てになってしまいます。そうならないためにも、「データベース天文学」は華々しくこそありませんが、とても重要な研究方法なのです。

最近では、研究成果やデータを人類のために公開する「オープンサイエンス」という世界的な動きもあります。これはいわば、世界中で知識や情報や成果を共有して⑧一緒に前に進みましょう、という流れです。

その流れは、2020年、世界が新型コロナウィルス感染症(COVID-19)で右往左往し始めたときにも見られました。

ウィルスの脅威によって、私たちは日々の何気ない暮らしだけでなく生命の危機にも直面してゴールの見えない状況に置かれました。そんな中、いち早く感染症に関係する研究データを国際的に共有しよう、という動きがあったのです。

研究者というものは、ふだんはじつくりと慎重に時間をかけて結果を磨き上げていくものです。信頼できるデータかということも厳しく調べて、論文などで成果を世に出すまでは研究データを公開しないことが多いのです。

でも、人間のピンチを前にして、もたもたしているうちに消える命をなんとかしても救うのだと、彼らは所属機関や国境や民族を超え、情報を共有して疫病と戦い、⑨共に前に進もうとしました。

私たち人間は迷信の時代を抜け出そうと、たった今も模索とチャレンジを続けているところなのです。

ふだん座っているその椅子も、灯りも、部屋も、この本も、平和な朝がやってくることも、たくさん知恵のリレーに支えられているといえます。

そういう目で、もう一度まわりを一つひとつ見渡してみてほしいのです。

360度どこを見ても、あなたの暮らしの中にあたりまえは何ひとつないはずです。

(野田祥代『夜、寝る前に読みたい宇宙の話』)

問四 ④「絶対にこうはなっていない」「こう」とはどのようなことですか、次の空欄にあてはまる語を答えなさい。

日常的に()を用いて()な暮らしを送っていること。

問五 ⑤「すごい」の意味としてあてはまらないものを次から一つ選びなさい。

ア すばらしい イ 恐ろしい ウ かなり多くの エ 偉大な

問六 ⑥「人は恐竜と違って「知らぬが仏」ではなくなってきた」とはどういうことですか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 人間は、先人たちが積み重ねてきた経験や記録にもとづいて物事の理解を深めてきたであり、科学的な知識を持たないまま生きていた恐竜とは異なり、予測される危機に対して何もしないではいられなくなったということ。

イ 人間は、自分たちの生きている世界の仕組みを知ってしまった唯一の生き物であり、知ってしまった以上は、そのすべてを明らかにするために、過去から続いてきた知恵のリレーを途絶えさせることはできなくなったということ。

ウ 人間は、ふだんの生活の中で知恵を活用することによって生き延びてきたのであり、それは高度な知能が発達していくために必要なことであつたが、本能のままに生きる動物と異なり、心の平穏がもたらされなくなってしまったということ。

エ 人間は、あつけなく滅んでしまった恐竜と違って、何代にも渡って知恵を継承することで、失敗と成功をくり返し、工夫するたびに進歩してきた生き物なのであり、もはや誰も人間の進歩を止めることはできなくなったということ。

問一 ①「いっぽう、人間は大きすぎです」とありますが、皆既日食に対して、人間の反応が他の生き物たちと違うのはなぜですか、理由を説明しなさい。

問二 ②「私の背中に手を置いてくれたのを覚えています」とありますが、それはなぜだと考えられますか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 人々がみな大きすぎている中、一人涙を流していることを見知らぬ人に気付かれてしまったのがはずかしかったから。

イ 「生かされている」という感覚を理解してくれる人がいるということが、涙が出るほどうれしかったから。

ウ 同じ場所に身を置いて神秘的な体験を共有したことで、婦人との間に強い仲間意識が生まれていたから。

エ 強く心を動かされて涙を流している自分を、優しく気づかってくれる人がいたということに心が温かくなったから。

問三 ③「生活の役に立っていました」とありますが、「役に立つ」とはここでは具体的にどういうことですか。次の三つについて、空欄にあてはまる語句を、解答欄の字数以内で書きなさい。B、Cについては本文中の語を用いること。

・ 毎日の日の出入りや月の満ち欠けは、時計や(A)のような役割があった。

・ いつも同じ方角にある星から、(B)がわかった。

・ 日の出直前に見えるおおいぬ座の「シリウス」から、ナイル川の氾濫に注意すべき時期と(C)時期がわかった。

問七 ⑦「明日の自分のために極めて大切だ、と知っておいたほうがよいものです」とありますが、なぜそう言えるのですか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 経験や記録というものは、自分が無視されたり、排除されそうになったりしたときに我が身を守るのに役立つから。

イ たくさん経験をし、その記録を積み上げることのくり返しによって、明日の自分がより良いものになるから。

ウ 経験や記録を重んじ、これを守り伝える意識が共有されていかないと、人は手にした英知をすぐ失ってしまうから。

エ 現代の私たちが手にしている科学の発展は、過去の人々の経験や記録なしでは到達することができないものだから。

問八 ⑧「一緒に前に進みましょう」、⑨「共に前に進もうとしました」とありますが、「一緒に／共に前に進む」とはどういうことですか、説明しなさい。

一 二次の文章を読んで後の問いに答えなさい。 ※本文中の()内の注は出題者による。

実は、わたしは英国で最も早い時期に新型コロナウイルスのPCR検査を受けた住民の一人だった。

2020年2月初頭に日本へ行き、1週間ほど東京で仕事をして英国に戻ったら、数日後に発熱と咳の症状が出た。「以下の国々からの便で英国に入学する方で、到着後14日以内に発熱や咳などの症状が出た人は、NHS(国民保健サービス)に電話をしてください」という貼り紙が空港のあちこちにあったのを覚えていた。そこに記された国のリストにはしつかりJAPANが入っていた。だから指示に従い、わたしはNHSに電話した。

その頃、まだ英国でのコロナ感染者の数は一桁だった。が、わがブライトン(英国の都市)には不気味な予兆があった。アジアに旅をして帰国した男性が英国人で最初の感染者となり、市内で感染が広がっていたからだ。しかも、その感染者の一人の職場をわたしは日本に行く前週に訪れていた。(中略)

検査の結果が出るまで、いろいろなことを考えた。自分がコロナに感染していたとしても、14日間家で寝ていればいいというだけで、特に恐怖感はない。

それより、①とても面倒くさいことになったと思った。

その面倒くささこそが感染よりも不運なことと思えた。まだ学校が休校になる前だったので、息子の中学の教員に事情を説明して、検査結果が出るまで彼を休ませねばならない。日本に行っていた間に息子の世話をするため仕事を休んでもらった配偶者にも、また2週間も自主隔離してもらわねばならず、さすがにこれには彼も憤るだろう。

けれども何より気になったのは、日本に行く前、感染者の職場に行ったときに、帰りにジャガイモや牛乳を買って届けた近所のおばあちゃんのことだった。それでなくとも体が弱い彼女に感染させた可能性があるからだ。水道工事のために家に入りにしていた業者のことも思い出した。確か、以前、彼の妻には喘息の持病があると言っていたような気がする。そういえば、ブライトンからヒースロー空港までのシャトルバスで隣に座っていたアイルランド人の気さくな女性は妊娠中だった。英国と日本を往復した間に会った人々やすれ違った人々が次々と思ひ出された。そして彼らの一人一人に家族があつて、同僚がいて、電車で隣に乗り合わせる人がいて、ショッピングのレジで前に並んでいる人がいると思うと、その人数はどこまでも増えていく。

それぞれ資本主義社会における経済活動のチェーンを想像したわけだが、この「ぞろぞろと続く目に見えない大勢の人々とのつながり」は、ふだんの生活ではあまり想起することはない。自分自身や自分の生活は他者のそれとは切り離されたものであり、消費や生産も単独の行為として考えがちだ。

1937年に出版された『君たちはどう生きるか』のコペル君や、1926年に獄中死した金子文子(こがねのふみこ)がマルクスの経済を通して不可視(目に見えない)ことの人々との繋がりを理解したとすれば、2020年のわたしたちは新型コロナウイルスを通してそのことを実感として捉えるようになったのではないだろうか。

わたしたちは孤立しているように見えて、⑤実は全然そうではなかったのである。

(略)

新型コロナウイルスによって立ち現れている人道主義とは、相手が誰かで「区別はない」。なぜなら、感染症は人種の違い、貧富の差、思想の違いとは関係なく、誰でもかかるものだからだ。災害時の助け合いは、敵だから見捨てるとか、味方だから援助するとかいう性質のものではない。⑥これはシンパシーではなく、エンパシーである。実際、今回の新型コロナウイルス感染で他者に対する感覚が鋭くなったと思っている人は多いはずだ。

例えば、わたしは現在、自宅が改修工事につき、仮住まいの身なのだが、毎週木曜日の夜に家の前に出て「ギョー・ワーカーへの感謝の拍手」をするうちに、だんだん近所の人々と顔見知りになってきた。近所の高齢者や基礎疾患のある人々の家に食材を届けるボランティア・グループも結成され、一人暮らしや夫婦だけで生活している高齢者、障害者のいる家庭などに定期的に電話を入れ、何か切れている生活必需品がないか聞いたり、雑談したりするサービスも行っている。車を運転しないわたしは、食品の調達や配達では役に立たないので、後者のほうに参加している。担当する家庭に電話して定期的に高齢者と話をしていると、これまで知らなかった人たちの知らない生活事情が見えてくる。戦前や戦中に生まれた世代に愛されている紅茶のティーバッグのブランドとかビスケットの種類とかがわかるようになった。そうなるべくと、携帯電話の向こうにいる高齢者の背後に、無数の似たような状況にある高齢者たちの姿が見えてくる。いま、カスタードクリーム・ビスケットを食べたいのにスーパーに買いに行けないお年寄りが英国に何人ぐらいるのだろうと思いを巡らすようになるのだ。

そんなある日、深夜に近所で大きな叫び声がした。ガラスの割れる音がそれに続い

②わたしを起点として、目に見えない③巨大な蜘蛛の巣が背後に広がったような感覚をおぼえた。

なぜか思い出したのは、吉野源三郎(一九九〇―一九八二)の『君たちはどう生きるか』(岩波文庫)で主人公コペル君が唱えた「人間分子の関係、網目の法則」だった。コペル君は粉ミルクを一つの例として、オーストラリアの牛から搾乳されたミルクが、遠い日本に住む自分の口に入るまでのプロセスを想像し、牛と自分の間には「牛の世話をする人」や「汽船から荷をおろす人」など、きりがなほほど大勢の人間が存在していて、粉ミルクの生産と流通、消費を通して繋がっているのだと気づく。そして「人間分子は、みんな、見たことも会ったこともない大勢の人と、知らないうちに、網のようにつながっている」と考える。

この「網目の法則」は、マルクス(一八一八―一八八三)が『資本論』の「第一章 商品」で書いた資本主義社会の商品論のサマリー(要約したもの)のようなものとして知られているが、この法則と似たようなことがウイルス感染についても言えるなあ、と考えていたところで検査の結果が出た。わりと早かった。あの頃は、検査を受ける人はレア(めずらしい)ことだったのである。

結果は陰性だったが、わたしのような健康きまりない人間の場合にはふつうの風邪のほうがコロナよりもよっぽどきついのか、熱が下がらずしばらくは大変な目にあった。しかし、④とりあえず、新型コロナウイルス感染版の「人間分子の関係、網目の法則」は遂切れた。病気になることより、網目がどんどん拡大していくことのほうが面倒くさいと思っていたので、イモと牛乳を届けたおばあちゃんや水道業者や東京で会った人々みんなに感染させたかもと心配する必要がなくなったことが何よりもわたしを安堵させた。

ちなみに、金子文子(一九〇三―一九二六)もコペル君のマルクスの気づきと同じようなことを『何が私をこうさせたか』(岩波文庫)に書いている。彼女は、その「ぞろぞろとつながっている」チェーンの中で搾取(さくしゆ)利益を不当に取り上げることとされている人間がいることを考察していた。子どもの頃に暮らした山梨の山間の小さな村の様子を観察し、彼女はこう書いた。「私の考えでは、村で養蚕ができるなら、百姓はその糸を紡いで仕事着にも絹物の着物を着て行けばいい。何も町の商人から木綿の田舎綿や帯を買う必要がない。繭や炭を都会に売るからこそそれよりも遥かにわるい木綿やカンザシを買わされて、その交換上のアヤで田舎の金を都会にとられて行くのだ」。

コペル君は粉ミルクという商品から、金子文子は繭という原料から、逆の方向から

た。わたしと配偶者は思わず外に出た。わが家が仮住まいしているエリアはミドルクラス(中流階級)の新興住宅地で、半世紀も前から同じ家族が住んでいてみんな互いをよく知っている公営住宅地とはわけが違う。だが、それでも、わたしたちが外に出ると、向かいの家も、隣の家も、住人たちが前庭に出て来ている。とりあえず、配偶者と隣家の若い父親、向かいの家の中年男性が3人で叫び声がした家の様子を見に行くことになった。結局、外に出られなくてストレスを溜めたティーン世代の若者の兄弟喧嘩(けんか)だったことがわかり、怪我をした息子を母親が緊急外来に連れて行くことになったが、彼らには病院に着けて行くマスクがなかったので、配偶者が家に戻ってきてマスクを数枚、持って行った。

なんとなくよそよそしく気取っていたストリートが、非日常な状況の中で⑦いつもと違う貌を見せ始めていた。

人々は、コロナ禍とともに経験することで、「聞いたことを聞かなかったことにはできない」気分になっている。(ブレイディみかこ『他者の靴を履く』)

※出題者注 キー・ワーカー…人々の生活に不可欠な仕事をする人。エッセンシャルワーカー。

問一 ①「とても面倒くさいことになったと思つた」とありますが、どのようなことを感じたのですか、最も適切なものを次から選りなさい。

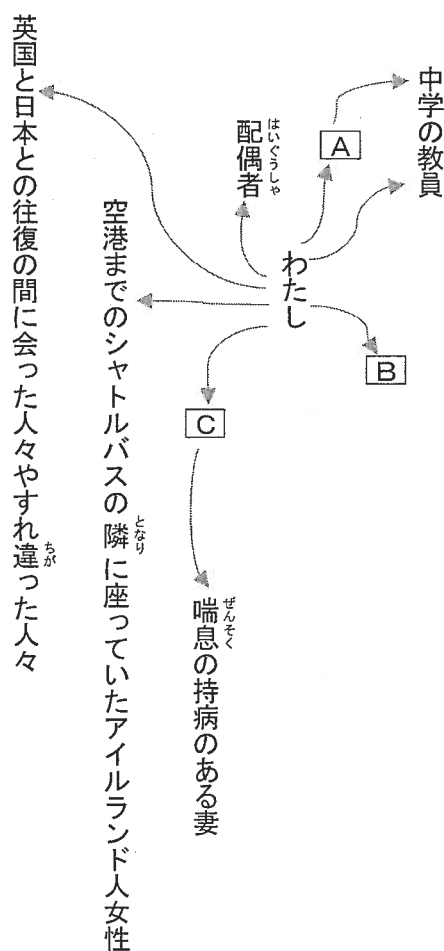
ア まだコロナ感染者が少なかった時期なので、コロナ感染よりも、だれにも相談できないまま、親しい人や弱い立場にいる人の安全を守らなければならないことをたいへんだと感じた。

イ まだコロナ感染者が少なかった時期なので、コロナ感染よりも、そのことが人に知られてしまい、地域の人々から仲間外れにされてしまうだろうことをおそろしく感じた。

ウ まだコロナ感染者が少なかった時期なので、コロナ感染よりも、自分と関わる人にどのような影響があるか一つ一つ考えなければならなかったことを負担に感じた。

エ まだコロナ感染者が少なかった時期なので、コロナ感染よりも、知らずに歩いたことで自分が街で感染を広めてしまったかもしれないことに責任の重さを感じた。

問二 — ②「わたしを起点として」とありますが、ウイルス感染をめぐって「わたし」が思い浮かべた人々を左の図のように表しました。A～Cにあてはまる人物を、文中の語を用いて書きなさい。(→で示したのは、そこから関わる人のことである。)



問三 — ③「巨大な蜘蛛の巣」とはどのようなものの比喩ですか、説明しなさい。

問四 — ④「とりあえず、新型コロナウイルス感染版の『人間分子の関係、網目の法則』は途切れた」とはどういうことですか、説明しなさい。

問五 — ⑤「実は全然そうではなかった」とありますが、どのようなことに気づいたのですか、簡潔に答えなさい。

問六 — ⑥「これはシンパシーではなく、エンパシーである」とあるが、ここでいう「エンパシー」とはどのような心のはたらきであると考えられますか、最も適切なものを次から選びなさい。

ア 弱い立場の人に寄りそい、同情の気持ちで手を差し伸べようとする心のはたらき
 イ 自分とは違う存在に対して思いを巡らし、ともに生きようとする心のはたらき
 ウ 生まれ育ちに関係なく、誰に対しても平等で公平に接しようとする心のはたらき
 エ 同じ体験をした人だけが共有できる仲間意識を大事にしようとする心のはたらき

問七 — ⑦「いつもと違う貌を見せ始めていた」とありますが、街の人々はどのように変化しましたか、説明しなさい。

三 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 ヨウシヨウのころの夢。
- 2 鳥の世話を妹にユダねる。
- 3 どうもろこしをユニユウする。
- 4 ドウソウ会に呼ばれる。
- 5 カクシンの的な発明。
- 6 痛みがオサまる。

解答用紙（国語） 受験番号

句読点は字数に入れること。

[]

氏名

[]

[]

問八	問五	問四	問三		問二	問一		
	問六	日常的に（ ）を用いて（ ）な暮らしを送っていること。	C	B	A			
	問七							

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一			
					A				
								B	
								C	
1	2	ねる	3	4	5	6	まる		